

# タバコの害を一貫して伝えてきました ～与えられる世論から、創り上げる世論へ～

## はじめに

今から21年前の2004年3月、六本木ヒルズの回転扉で前代未聞な事故があった。当事、このアクシデントは驚愕と凄惨さを持つて伝えられ、筆者は世論時報誌に、回転扉とタバコ問題をからめて「必要のないもの」として寄稿した。今でもそうだが、タバコ問題は、政権与党やマスコミにとって忌避される傾向があったが、創刊30年目の世論時報誌は堂々と掲載してくれた。製本された世論時報誌の存在意義・情報発信程度は圧倒的で、ちらりと記事を一瞥するだけで、納得・理解が伝わり、共鳴・共感の輪が広がる。

## 無煙世代育成がすべて

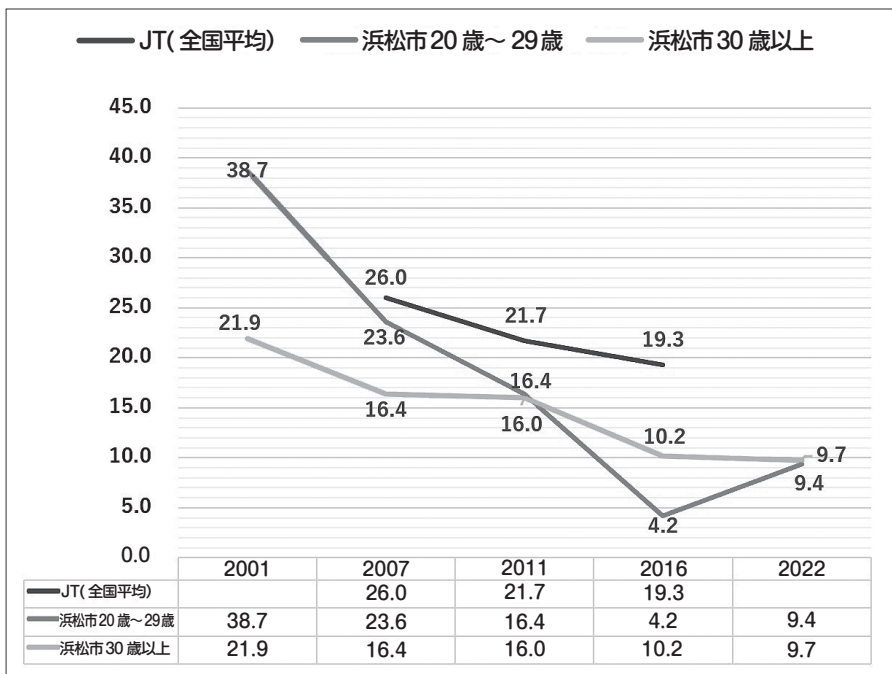
タバコは身体に良くないことは、まことしやかに伝えられているが、問題はどの年代で認識させるかだ。赤ちゃんと生まれると、健やかに育って欲しい、明るく元気に成長して欲しいと願い、間違っても20年後は立派な喫



かとう かずはる  
加藤 一晴氏

昭和60年 愛知医科大学卒業  
平成2年 済生会滋賀県病院勤務  
平成11年 加藤医院 開業  
加藤医院 院長  
こどもをタバコから守る会 代表  
著書：禁煙は愛・禁煙は喜び

煙者になって欲しいとは思わない。それが中学校や高校生を経て、社会人になるうちに、喫煙容認社会に塗れ、喫煙擁護スタンスに変わっていく。そして結婚後に生まれた我が子を見て、先ほどの願いを噛みしめるのだが、この忌まわしいサイクルは不転の決意で対応しないといけない。無煙世代の育成こそが重要なのだ。世論時報社からは2008年に「禁煙は愛・禁煙は喜び」を上梓した。



令和4年 浜松市民喫煙率

## Think Globally`Act Locally 地球規模で考え、足元から行動せよ

社会への働きかけは、トップダウンとボトムアップがある。日々コツコツと積み上げ、同じ価値観を共有し、次に進むべきであろう。情報も単に「伝える」のではなく、深く「伝わる」ことが重要である。20年ほど情報提供のおかげで喫煙率は下がったが、加熱式タバコの台頭もあり、次の戦略が要求される。波紋は「起きる」のではなく「起こす」ものであり、広域流布しながら、世論形成できる世論時報誌は絶大な影響を及ぼしている。

これまでの世論時報誌の功績に感謝しつつ、今後の社会貢献に期待したい。